

第4回 千代田区文化芸術プラン（第四次）策定検討会議議事録（要約）

- 日 時：2019年12月12日（木）10：00～11：20
- 会 場：千代田区役所 4階401会議室
- 出席状況：出席委員名15名、欠席委員5名
- 事務局：地域振興部文化振興課3名、受託支援業者2名
- 議 題：（1）委員アンケート②の振り返りについて
（2）第四次文化芸術プラン（第四次）の骨子案の検討について

（議事要旨）

1. 開 会

2. 議 題

（1）策定スケジュールについて

<事務局より資料1説明>

（2）ちよだアートスクエア事業あり方検討会について

<事務局より資料2説明>

座 長：ちよだアートスクエアは、中学校の雰囲気を残しながら、若いクリエイターも集まっている。自分も検討会に参加しているが、どの委員も好意的な印象を持っていた。今後、検討をしていくが、現在の方向性を活かしていくという結論になるのではないか。

委 員：麹町地域と連携した事業とは具体的にどういったものか。

事務局：山王祭の歴史や祭礼に関する様々な物品を展示する事業等を行っている。アーツ千代田3331は外神田に立地しているため、番町地域に住む委員からは、知らなかったが素晴らしい、もっと周知するべきだという意見をいただいた。

委 員：これまで神田地域に根差した活動を行ってきた。ただ、地域的な偏りが感じられるため、全区的な取組みとして始めていると理解している。

委 員：自分の住む地域ではあまり知られていないと思う。

委 員：そのような状況を踏まえた新しい取組みだと理解している。

3. 議題

（1）委員アンケート②の振り返りについて

<事務局より資料3説明>

委 員：江戸しぐさについてアンケートに書いたのだが、資料3には取り上げられていない。どのように取り扱われているのか。

座 長：第四次プランでは、江戸しぐさという文言は削除するという結論になっている。

委員：文言を使わないことは了解している。ただ、以前の資料には「江戸しぐさの考え方を残す」と書かれていた。江戸しぐさは歴史的にはなかったものであり、考え方を残すことは問題ではないか。

座長：計画では「思いやり」などの考え方を残していこうという方向性である。第三次プランの検討時に、文化芸術を幅広いものとして捉えたいという考え方があり、生活様式などを含めることとなった。当時、江戸しぐさという言葉が使われ始めており、間違った内容だとは認識されていなかったなので、その言葉を用いたという経緯がある。第四次では、考え方は引き継ぐが、江戸しぐさという言葉は用いないという結論に至ったと認識している。

委員：江戸しぐさは商業的な言葉であり、歴史的に間違っていることである。考え方そのものも問題であるため、「江戸しぐさの考え方を残す」と書かれていることが問題だと思った。座長に説明いただいた内容であれば了解である。

(2) 文化芸術プラン（第四次）の骨子案について

<事務局より資料4説明>

計画の策定にあたって・基本的な方向性について

座長：まずは資料4の1ページ目の内容について意見をいただきたい。後で気づいたことがあれば意見をいただくとして、次に進みたい。

計画の方向性

座長：資料4の2ページ目には方向性にくわえて、文化芸術振興の効果も記載されているが何か追加することはあるか。

委員：方向性の2つ目に3つの資源が挙げられている。その資源として、第三次プランでは取り上げていなかった食文化を考えられないか。食文化を通じて複数の資源につながる可能性もあるので、検討いただきたい。

座長：プロジェクト2「知恵のある暮らしの伝承」の主な取組み（例）として「食文化の伝承」が位置づけられている。方向性のところには食文化は取り上げられていない。

委員：食文化は観光にもかかわるものであり、様々な施策の切り口となる。また地域の文化を知るきっかけでもあるので、ぜひ取り上げてもらいたい。

事務局：千代田区の食文化は脚光を浴びているところである。地域の文化において食は重要な位置を占めている。また、観光という視点をはじめ、さまざまな施策における視点になると思う。

委員：千代田区は秋田の子どもたちと交流しているが、そのなかで蕎麦打ち体験をしているようだ。また、秋田の子どもはコンビニエンスストアの多さに驚くらしい。コンビニエンスストアがどう捉えられるのか分からないが、食文化を位置づけ

ることは検討いただきたい。

事務局：文化芸術の視点からも食文化を継承・発展させるとともに、観光や商業振興にもリンクさせ、様々な分野を活性化させていきたい。

座長：食を資源と捉えるときに、3つの資源のうちどれに該当するのは悩ましいところである。地域資源になるのか、それとも3つの資源をまたぐものになるのか。見せ方も含めて、事務局で検討いただきたい。

委員：施策としては「ちよだの魅力の共有と発信」で取り扱うこともあり得るのか。食文化に関する取組みとしては、古くから伝わる食を継承していくことは大事だと思うが、同時に新しい食文化を発信することもよいと思う。観光客が知りたいことだと思うので、活性化のために現在進行形の食文化も取り上げてもらえると思う。

事務局：主な取組み（例）に「文化資源の見える化の推進」や「シティ・プロモーションの推進」が挙げられている。そのなかで区内の新旧の食を紹介するマップなどを作成し、見える化を進めることも考えられると思う。

計画の体系

座長：最も重要な部分である計画体系について意見をいただきたい。

委員：体系の見方について確認だが、主な文化芸術拠点の表記のなかで、点線で示されている箇所と空白になっている箇所の違いは何か。

事務局：青く太くなっている部分が、各拠点において取り組まれている施策を示している。ちよだアートスクエアのように施策が隣り合っている場合はよいが、該当する施策が飛ぶ場合もあるので、そのような箇所を点線で示している。

委員：それであれば日比谷図書文化館が、施策3・4に該当しないことは疑問である。

委員：施策に主な文化芸術拠点を当てはめようとする、該当しない施策は行っていないかのような印象を与えるため、検討した方がよい。

事務局：事務局でも詰め切れていないと認識しつつ、未完成のまま資料で示している。該当するかしらないかという2択ではなく、濃淡のあるものだと思う。事務局内でも整理したい。

座長：空白と点線で示されている箇所は同じことだと理解している。分かりやすくしようとしたのに逆に混乱のもとになったところだろう。また、まったく該当しない施策と拠点の組み合わせがあるのかということも気になる。

委員：施策と拠点の関係を示そうとすると、拠点別に施策との関係について議論することになる。表現について検討した方がよいと思う。

委員：拠点という項目なので網羅する必要はないと思う。ただ、場所に着目するのであれば、施策に該当する場所は示すべきだと思う。たとえば学校でも取り組んでいるので、そのような事実はきちんと表現した方がよい。

委員：見せ方はもとより、施策と拠点の該当のさせ方についても事務局で検討を深めてもらいたい。

事務局：この部分は意見をいただきたかったところである。いただいた意見を踏まえて修正させていただく。

委員：今日は基本目標からプロジェクトまでを重点的に見ていただきたい。主な取組みは例示なので変わることもある。

座長：自分としては、施策の説明文も含めてわかりやすくなっていると思う。ただ、複数の目でチェックした方がよいと思う。この場で意見が出にくいようならアンケートで意見を募るとよい。また、効果についても意見をいただきたいので、アンケート項目としてももらいたい。

委員：施策7「文化芸術を創り、担う人の育成」は以前「文化芸術に関わる人材の発掘と育成」から変更されている。「発掘」という言葉が落ちているが、プロジェクトでは「発掘」という言葉が使われている。この点、整合性は取れているのか。

委員：人材の発掘は育成の前段階であり、手段のひとつである。施策に「発掘」という言葉が用いられていなくても、プロジェクトで「発掘」という言葉を用いることは問題ないと考える。

委員：そのような整理ができているのであればよいと思う。

座長：アンケートでいただいた「文化芸術を創り、楽しむ人を広げる」とい案をそのまま採用しようとしたのだが、語尾が体言止めではなかった。他の施策は体言止めなので合わせようとしたところ、結果として「育成」という言葉を採用した。前回示した施策名称でも使われていた言葉である。

5 その他

事務局より、4月上旬から中旬にかけて次回開催する旨を説明した。